令和４年度全国科学館連携協議会北海道ブロック会議

兼　北海道青少年科学館連絡協議会第２回館長会議　概要報告

１　会議名

令和４年度全国科学館連携協議会北海道ブロック会議

兼　北海道青少年科学館連絡協議会第２回館長会議

２　会場

岩見沢市生涯学習センター　いわなび（岩見沢市４条西１丁目３番地４）

３　日程

令和４年 11 月８日（火）14：30～16：30

４　参加者（順不同）

旭川市科学館「サイパル」、苫小牧市科学センター、岩見沢郷土科学館、北海道立オホーツク流氷科学センター、滝川市こども科学館、帯広市児童会館、小樽市総合博物館、DENZAI 環境科学館、札幌市青少年科学館、全国科学館連携協議会事務局

※　資料交換のみ参加

釧路市こども遊学館、北網圏北見文化センター、稚内市青少年科学館、厚岸町海事記念館、余市宇宙記念館スペース童夢

５　会議内容

⑴　連携協総会・幹事会の報告について

北海道ブロック幹事（札幌市青少年科学館）より、幹事会・総会で協議された事項について報告があった。

⑵　北海道博物館協会役員会の報告について

オホーツク流氷科学センターより、北海道博物館協会役員会で協議された事項について報告があった。

⑶　令和４年度４月～９月の各館の運営状況について

各館の上半期の事業報告書と調査票を事前に提出していただき、それをもとに報告及び情報交換を行った。主な話題は以下のとおり。

多くの館から、来館者数はコロナ禍前の水準には戻っていないが、前年度と比較すると増加傾向にあること、また、コロナ禍で中止していた事業について、定員を減らして実施回数を増やしたり、事前申込制にしたりするなどの対策を講じて再開したところ、申込開始からすぐに定員に達する事業もあるなど、概ね好評だったとの報告がされた。今後は感染状況を踏まえ、対策を講じながら徐々に以前の実施規模、定員に戻していきたいという意見が多く寄せられた。

⑷　協議事項

今後の新型コロナウイルス感染症対策について協議した。入館者や参加者名簿の記入及びその管理や休止展示等の再開時期などを各館模索している状況である

対応策を一律化することは難しく、今後も各地域の感染者数などに応じて、自治体や学校などと情報を確認しつつ、各館にて対策を講じていく必要があるとの話があった。

また、全国科学館連携協議会事務局から、巡回展示物新規作成の助成金について、追加募集を検討しているとの情報提供がされた。予算の増額や年度を超えて実施可能にするなど、多くの館が参加しやすいように運用ルールを調整しているが、参加するにあたり障害となっていることや、必要な条件などの意見を募集しているとの話があった。

6　その他

北海道ブロック会議は３年ぶりに対面式で開催した。対面やオンラインなど顔を合わせて開催することにより活発な意見交換が期待できる。オンラインの環境が整っていない館もあるが、今後も新型コロナウイルス感染症の状況を鑑み、できるだけ多くの館が参加しやすい開催形式を検討していきたい。

なお、欠席館には北海道ブロック幹事より、会議終了後に各館の資料及び会議の内容の情報を共有することとした。

【開催風景】